

おとな・り (re)
調査隊が行く！

おとな・り (re) スタッフが世田谷の気になるコト・モノ・ヒトを
アレコレ調べてレポートします。

この夏、耳を傾けて 戦争の記憶と記録



私たちの住む町にも 70 年以上前の戦争の記憶と記録が残っています。この貴重な遺産は、私たちが
見ようとしなければ、耳を傾けなければ、やがて風化していくのかもしれませんが。今回「聞かせて」と
いう思いに応えてくださったのは、新町の商店街で明るくたくましく生きてこられた一人の女性でした。

取材・文/麦島まゆみ

12歳で遭った東京大空襲 人の縁に支えられて

昭和 20 年 (1945 年)、私は浅草
の待乳山小学校の 6 年生でした。家
は造花を造る工場を営んでいました。
女学校受験のために疎開先の宮城県
から東京に戻り、南千住の駅に着い



内田まきさん 昭和 7 年 (1932 年) 東
京都台東区生まれ。新町の総菜店の女
将さんとして長年地元で親しまれ、店
をたたんだ後も商店街の顔として活躍。
世田谷で最も歴史ある高齢者クラブ「高
砂会」現会長

たのが 3 月 10 日の朝でした。夜の間に
大空襲があったのですが、当時は
詳しいことはわからず、焼け出された
人たちがぞろぞろ歩いてくるのを呆
然と見ていました。防空頭巾の下の
顔が真っ黒で、とにかく恐ろしい光
景でした。私たちは一旦学校で待機
することになったのですが、家族が
迎えに来ない子たちが 10 人ぐらいい
て、私もその一人でした。結局、消
防団の方が埼玉県草加市の叔父の家
までリヤカーで送って下さいました。

後になって、両親と弟、妹、近所
に住んでいた叔父と叔母の 6 人が
亡くなったことがわかりました。遺骨
も何もありません。ただ、父の遺骨
だけは 45 年後に隅田川で見つかり、
納骨することができました。もう一
人の弟は疎開していて無事でしたが、
千葉の親戚の家に引き取られ、草加
市で暮らす私とは遠く離れてしま
いました。

12 歳で一人になってしまいました
が、私は人の縁に恵まれていたと思
います。叔父夫婦は実の子たちと私
を同じように扱ってくれました。学校
から帰ると、私の分のお饅頭がちゃ
んととってあって、そんなことが有
難くて、今でも忘れられません。

14 歳から働き始め、19 歳で結婚
して、新町で総菜店を始めました。
84 歳の今まで無事にこられたのは、
多くの人たちの善意に支えていただ
いたからです。ただただ感謝の思い
しかありません。

取材を終えて 生まれ育った町が戦
火に焼かれるという、想像を絶する
経験をされた内田さん。つらい記憶を
掘り起こし、過酷な状況を語る言葉
の端々には周りの方々への感謝の言葉
が散りばめられていました。強く、優
しい大先輩たちが築いて下さった穏
やかな日常。その有難さと、そのもろ
さを忘れずにいようと思います。



過去を学び未来を考える場所、世田谷区立平和資料館

平成 27 年 8 月に世田谷公園の
一角に開館した平和資料館には、
太平洋戦争当時の世田谷の様子を
知ることのできる資料が集められ、
その多くは寄贈によるものです。

区内にあった軍事施設や疎開児
童の様子も知ることができ、ライブ

ラリーには太平洋戦争関連の書籍
約 2000 点、映像資料約 450 本
が公開され、一部を除き貸し出しも
可能です。多目的室では、10 月か
ら広島原爆を描いた絵本「おこり
じぞう」の絵の作者・四國五郎さん
の特別展を予定しています。



世田谷区立平和資料館
☎ 3414-1530

所在地：世田谷区池尻 1-5-27
(世田谷公園内)

入館無料

開館日時：9:00 ~ 17:00 ※火曜と年末
年始休館。火曜が祝日の場合はその翌日